



印旛沼で見た夕焼け



名残惜しい秋

秋はあっけなく過ぎ去り、紅葉の季節が名残惜しい気持ちです。秋のある日の出来事をお伝えしたいと思います。わが息子が通う中学校の文化祭に出かけていきました。体育館では書道や絵画などの展示があり、ステージでは学級対抗のコーラスは披露されています。会場は前半分が着席部分、その後ろは立ち見となっています。その後方に展示物が並んでいるという構成でした。立ち見で子供たちが緊張しながら歌う様子をじっと聴いていました。やや後方から話し声がしたので気になって後ろを振り返ってみると、あるおおかあさん二人が休むまもなくおしゃべりをしていました。合唱を見ながら、話しているのです。しばらくして、私はいたたまれなくなり後ろを向いておしゃべりしている二人に「シー」と静かにするよう合図しました。二人は驚いたような表情でそこを立ち去りました。

それを見ていた友人が言うには、「注意してもむだ、憎まれるだけ」だといいます。「あの人は反省もしなし直らない」という。その後、その二人は会場のなかで場所を変えて相変わらずおしゃべりをしていました。「だいたい、俺たちだって行儀がいいほうじゃない。」といわれ、それもそうだなと妙に納得しました。が、この親しい友人はある学校のPTA会長をつとめていて普段から自分勝手な人たちと戦っているような…。やはり、良識ある人は権利だけ主張して、義務を果たそうとしない人たちに疑問を感じているはずです。自分だけ蚊帳の外にいてあれこれ評論する人たちを！

秋は感傷の季節ですが、あれこれ人に干渉したくなる季節です。

白木と漆喰の空間 青戸信雄先生



キッチンとカウンター



洗面所



キッチンからLDを見る



クローゼット



二階の寝室

内装は無垢のヒノキと漆喰で仕上げました。青戸先生の繊細なセンスは家具や出入り口に表れています。障子は袋貼りにしています。断熱性も向上しますよ。上に見える四角のプレートは壁掛けに利用できますが、ワンポイントにもなっています。二階の寝室はお客様のご希望で漆喰本来の白に色をくわえました。アイボリーになっています。今回もこのような仕事に携わることができて幸せです。和風テイストのおしゃれな空間は、住む人に安らぎをもたらすことでしょう。

発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>